



「自らの命は自らが守る」

災害時マンションで起こる事

◆ 災害時マンションで起こる事は?

ライフラインが無くなると!

・インフラ・設備の停止

1. エレベーターの停止
→ 閉じ込めが発生
→ 水や非常食の運搬が非常に困難になります
2. 水の供給停止
→ 受水槽へ水を送るためのポンプが停電や故障で止まり、断水します
3. トイレの制限
→ 排水管の破損確認が済むまで各家庭でのトイレ使用が禁止
4. 防犯対策(オートロック)が効かない?
5. 機械式駐車場は車の出し入れができない
6. オール電化はすべての機能が停止します



◆ エレベーターで確認

● エレベーターに乗ったらまず確認

エレベーターに乗ったら2つの安全装置が付いているかを確認
最近のエレベーターにはこの2つの安全装置が付いています



戸開き走行防止

エレベーターのドアが開いたまま走行したら、そのことを検知して直ちに緊急停止させる装置です

利用者が乗場のドアの枠とかごの間に挟まれる事故を防ぎ、利用者の安全を守ります

※2009(平成21)年9月28日以降に着工された新設エレベーターに設置が義務付けられていますし、それ以前のエレベーターは設置を推奨されています



地震時最寄階停止

この装置は、初期微動P波を感知した時点で、エレベーターを自動的に最寄りの階に停止させ、利用者の避難を促します

※地震の初期微動(P波)を感知して止まる機能ですが、震源が近いと地震の揺れて停止するので、階の間で止まる事も想定されます

◆ エレベーター内で災害に遭遇したら

エレベーターで地震にあった時の行動を覚えておきましょう

1. 揺れを感じたら、すべての階のボタンを押す

※ 近い階から押す

2. 閉じ込められたら、「非常ボタン」を長押し

※ 何度も試してみる

・万一閉じ込められたら

インターホンや自身の携帯電話で外部と連絡を取りましょう

・状況を正確に伝え、救助を待ちます

※ 平時にエレベーター管理会社に閉じ込められた人の救助方法を確認しておきましょう

大震災時には、保守会社の技術院が来れない可能性が大きいです

※ 震度4以上を感知して運転を休止した場合は、エレベーターに損傷がない場合でも技術者の点検を受けるまで復帰しません

3. 大きな音を出す

※ ペンやコインなど硬い物でたたく(声出さず体力温存)

4. ドアを「閉めてみる」

※ 非常停止時、一部開いている場合電気回路が回復することも





自宅を最高の避難所に!

その 21-3

Point 直下地震の時は、地震時最寄階停止装置の機能はしません



直下型地震が発生した時に起こることで、初期微動(P波)から本震(S波)までの時間が短い場合、地震時最寄階停止装置の機能はしません
エレベーターを最寄の階に移動中に本震(S波)がきてしまい、その時点で休止してしまい利用者が中にいれば、閉じ込みが発生します

Point マンションなどでのエレベーター閉じ込め救出訓練
大震災時には、保守会社の対応ができない可能性が大なので、保守会社指導のもと閉じ込め救出訓練の実施を検討する必要があります



◆ エレベーター内の準備

エレベーターが止まると保守会社の技術員の到着してから運転再開となりますが、大規模な地震が発生した場合は、交通機関、通信回線などの混乱により、停止したエレベーターの復旧に大幅な時間が掛ることが予測されます

その時の為にエレベーター内に左図の救命ボックスを準備しておき、万々に備えましょう



ライト付きラジオ、非常用飲料水、簡易トイレ、ブランケット、救急用品、サイリウムライト、軽食やブランケット、ラジオ、衛生用品などさまざまあります
備え付ける場合に特に重要なのが**水とトイレ、明かり**の3つ
また、救助を呼ぶためのホイッスルも大切です

【福島区役所エレベーター内にある救命ボックス】





◆ マンションのオートロックを確認

マンションで停電が起きると、エントランスの自動ドアやオートロックは基本的に停止します
住んでいるマンションの仕様を事前に確認しておくことをおすすめします

※最新の高層マンションなどでは、非常用発電機が作動し、自動ドアの一部やエレベーターに
数時間は電力が供給される場合もあります

- ・停電で自動的に開く(開放)タイプ
- ・停電で自動的に閉じる(施錠)タイプ
- ・停電前の状態をそのまま維持する

※誤動作や中途停止の場合もあります

※非常用の開放手段や代替出入口など具体的な対処法を確認

※建物の歪みにより物理的にドアが開かなくなります

※非接触型のカードキーを普段から利用している人は、念のために鍵も持つようにしましょう

◆ ケガ人の対応

災害が起こるとエレベーターが停止する確率が高くなり、ケガ人を地上まで運ばないといけない

- マンション全体で搬送用担架を備える
- みんなで応急手当や担架の使い方を学ぶ
- ケガをしないために、各家庭で家具や家電の転倒・落下・移動防止対策をする

◆ 排水管の破損

マンション内の排水管にヒビや割れがないか点検が終わるまでは利用を控えないといけません
排水管が使えないということは、トイレ問題も発生します

トイレ問題 (07、13)